

【概況説明】

平成 25 年度の消費収支状況等を分析してみると、前年度に比して帰属収入に対する学生納付金の比率が若干減少したものの、補助金収入の比率がやや増加しました。支出面では人件費の比率が減少し、また各部門においてきめ細かい予算管理に取り組み、種々の経費節減努力を行ったことにより、管理経費を中心に支出を減少させることができました。その結果、消費収支において昨年度に引き続き帰属収入は消費支出を上回っており、また基本金組入れ後の消費収入に対する消費支出の超過率も前年までに比して引き続き減少傾向となっています。今後も学園全体で学生募集を順調に進めるとともに、より一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、次年度以降も収支比率を悪化させることなく、より好転していけるよう努力していく必要があります。

また貸借対照表には負債額が計上されていますが、これは高等学校において例年適用を受けている愛知県私学振興事業財団の授業料軽減貸付金の償還に要する財源として愛知県から全額補填されるものであり、実質的には負債額ゼロのため、負債比率が極めて低く、自己資金率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態であるといえます。